

見える音 “Visible Sound”

今夏 7 月 20 日～24 日にスイスのジュネーヴにある l'institut Jaques-Dalcroze ダルクローズ高等音楽院の主催で開催された国際大会『IJD Congress 2015』の期間中のイブニングイベントにて、私たちアンサンブル ユーリズミックスは身体表現音楽の研究作品を発表しました。

日程 : 2015 年 7 月 21 日 (火) 21 : 00 (日本時間 22 日 (水) 午前 4:00)
場所 : ダルクローズ高等音楽院 (スイス、ジュネーヴ) 内、ホール
演出 : 中館栄子
企画&進行 : 内藤郁子
出演 : 江川綾、高橋諒多、矢作智、内藤郁子

演目

オーボエとファゴットのためのソナタより第 1、2 楽章…………… アンドレ・ジョリヴェ作曲

卒業したての若い高橋諒多さん、矢作智さんが、それぞれオーボエとファゴットの音になります。
ダブルリードの音を身体表現するには、しなやかで強い筋力が必要。この作品はお二人が在学中から長い間研究し続けてきて、何度か舞台発表をしてきました。
今回はその集大成となるよう、これまで学んできたことや発見をまとめ、動きを更に掘り下げました。

24 の前奏曲作品 28 より 4、8 番…………… フレデリック・ショパン作曲

江川綾さんのソロです。彼女はピアニストでもあるので、このプラスチックアニメによって演奏表現が大きく進化する、その実体験となりました。
このように演奏者のためのダルクローズ・リトミックとその中のプラスチックアニメ創作の効果は、昨今世界中で注目されている研究です。

風響譚詩…………… 桃井聖司作曲

当会の名誉会員でもある作曲家桃井聖司さんが、このイベントのためにこのメンバーの動きを見て書き下ろしてくださった新作。邦楽器の音色によって「風と人間の関わり」を描いた作品です。
和太鼓系の打楽器の役が男性二人、笛の役が一人、箏・篳篥（ひちりき）と琴を一人で二役。
前回八年前と同様、邦楽器の音色を表現する独特の身体の在りようを印象付ける作品となりました。